

大分市経済ミッション(農業博)報告

中国の中部地域の中心「武漢」で、いち早く大分ブランドの確立を

2008年11月1日から武漢市で開催された「第5回中国武漢農業博覧会」にあわせ、大分市からは企業3社を含む10名で構成された「大分市経済ミッション」が武漢市を訪れました。

今回は、ジェットロ大分、ジェットロ上海センター大分経済交流部、武漢市の協力をいただき、農業博覧会への大分ブース出展ほか、「大分フェア」を武漢市内の2つのレストランで開催し、大分の郷土料理を武漢の皆様実際に食べてもらいました。



農業博覧会大分ブースにて



立山 大分定食

新世界ホテル 大分フェア

(概要)

大分ブースに6社が出展

第5回中国武漢農業博覧会内 大分ブース

日 時：11月1日(土)～3日(月)

場 所：武漢国際会展センター

内 容：大分の特産を紹介(試飲、試食あり)

出展品：(有)デリカフーズ大塚 豊後とり天

(有)吉野食品 吉野とり飯

九州乳業(株) LL(ロングライフ)牛乳

(有)富士見水産 りゅうきゅうのたれ

JA玖珠九重 吉四六漬

八鹿酒造(株) 銀座のすすめ、清酒八鹿

大分フェアを武漢市で初めて開催

●日本料理「立山」(主に日本人対象)

日時：11月1日(土)、2日(日) 昼食時と夕食時

場所：晴川假日酒店 2階

内容：大分特産「豊後とり天、吉野とり飯、りゅうきゅう、吉四六漬、だんご汁」を定食形式(価格38元 約550円)で、大分の焼酎、清酒とともに提供。1日限定50食。

●武漢新世界酒店 レストラン(主に中国人対象)

日時：11月1日(土)、2日(日) 夕食時のみ

場所：武漢新世界酒店 ホテル1階 レストラン

内容：同上的大分特産を、ビュッフェ形式のメニューの一部として提供(価格165元 約2400円)。

◆開催理由

1. 大分の物産輸出促進

現地で実際に大分の料理を提供することは、販売促進のために行なう宣伝活動の一つとして、最も有効な手段です。大分の物産の周知、宣伝をすることにより、継続的な輸出につながります。

2. 国際交流

食は、市民にとって最も関心のある身近なテーマであり、両市民が互いの郷土料理を知ること、さらに友好が深まります。

3. 観光誘致

大分の食の魅力をもっとPRすることにより、中国からの観光誘致につながります。

◆武漢日本商工クラブにご案内

武漢に駐在されている日本人の方々に、大分の郷土料理のファンになっていただき、その後、中国人の方々



新世界ホテル 厨房にて

にも広がっていくことを期待し、まずは武漢日本商工クラブ(2006年7月時点62社、会員数140名超)に企画のご案内をしたところ多数で来場いただきました。

(反響)

1. 大分ブース 関心高い安全な食品

日本食への関心は高く、試飲、試食を始めると、黒山のような人だかりになってしまいます。牛乳、お酒、漬物、とり天と1商品ずつ順番に試飲、試食をしていただきました。

試飲、試食をしていただきながら、アンケートをとらせていただきました。我が国は「安ければいい」から「多少高くても安全な製品を」という考えが主流となりつつありますが、武漢でも同様な感覚が着実に芽生えており、安全への関心が特に強かった牛乳については、日本製品への信頼性もあって、大きな可能性を感じさせてくれるものでありました。

2. 大分フェア 大分定食完売

日本料理「立山」での大分定食1日限定50食は2日間とも完売。味は、参加した団員と現地料理人との共同制作により、おおむね大分の味を再現でき、大変好評でした。日本人はもとより2日続けて来店した中国人バイヤーもいました。

また、立山の女将さんは、顧客からのアドバイスを熱心に聞き、2日目は工夫して量、味、盛り付けをしていました。

新世界ホテルは五つ星であり、新しく高級なレストランでした。

料理の出来栄は、見た目も味もよく、器もよいものでした。完売とはいきませんでした。りゅうきゅうがあっという間になくなってしまったとのことでした。

た。高級料理店で開催は、大分の物産が高品質であるというイメージ作りに一役買ったと思われます。

マネージャーからは、来年はもっと長い期間大分フェアを開催したいとの話をいただきました。



大勢の人でにぎわう大分ブース

(課題と今後の取り組み)

来年2月にも大分物産展を武漢のデパートで

今回は好評だった「大分ブース」「大分フェア」ですが、大分特産としてアピールするには、もう少し品数が必要です。

武漢でも、「高くても品質の良いもの、健康に良いものを買いたい」「より安全で安心できるものを買いたい」という需要は高まっています。

企業各社事情が異なりますが、それぞれの問題を解決し、大分武漢の友好のパイプを利用し、中国の中部地域の中心「武漢」で、いち早く大分ブランドを確立させることでチャンスが広がると思われます。

来年2月に、武漢のデパートより大分の物産展を開催したいので、こちらで販売できる商品リストを提示して欲しいと話を持ちかけられています。興味のある方は、大分市商工労政課へお問い合わせください。関係機関と連携し支援していきます。



農業博覧会2Fから

参加者の声

大分市経済ミッション(農業博覧会)に参加して

大分銀行 営業統括部 大分銀行ビジネスクラブ事務局
推進役 安部 雄一



農業博覧会の大分ブースと武漢市の2つのレストランでの大分フェアは、日本のそして大分の食材、食品のPRには多大な効果があったと思われます。ただし、参加者はバイヤーというより、“どこで買えるのか”といった声が多い一般消費者で、「これは売れる」という感触は得たものの、今後の販路開拓には具体的商談が必要です。販路拡大ができれば、大消費地だけに大量販売が期待できます。

武漢市内でスーパーを覗いてみましたが、一般食品や日用品については日本の物価の2～3割といったところですが、化粧品や外国菓子、高級食材等は日本と変わらない物価なので、販路の確立とともに価格設定も重要となります。

PRの効果は大きく、アピールは十分できました。日本や大分の文化に興味を示している人も多く、パンフレットを持ち帰る人も多くいました。

様々なイベントや中国の方と接することにより、人も街も元気であることがまずひしひしと伝わってきました。街の雰囲気、空気、人々が希望に満ちている様子はまさに日本の昭和30年～40年代の高度経済成長時代のものであり、これから急速に中国が発展することはまちがいないでしょう。

日本の食品や農業技術には非常に期待感が大きく、大分県内企業をはじめ日本企業が武漢市と交流を深めることにより、ビジネスチャンスが飛躍的に広がる可能性が高いと思われます。上海、香港等海岸部の都市には日本企業も多く進出していますが、武漢等内陸にはまだまだ市場開拓の余地が大きく、早い者勝ちといった感があります。

今後、大分市と武漢市の結びつきを更に密接にすることにより、チャンスは大きく広がっていくと言えます。特に30年間の友好都市としての人や技術の交流は、他の日本各地より強固なつながりが既にできており、広大な市場に食い込むには絶対的に有利であるとの思いを強くしました。

「とり天」が武漢のレストランの定番料理に

(旬)デリカフーズ大塚 社長室長 砂田 宗重



写真(右) 砂田氏

武漢市へは、これで2回目の訪問となりました。

大分の郷土料理の「とり天」を武漢市民の皆様にご紹介できればと農業博覧会での展示紹介、そしてレストラン2店での販売を行ってきました。

鶏肉は、中国でも需要の多い食材で、日本食への興味もあり受け入れられ易い料理だと思えました。

五つ星ホテルのレストランの料理長もとても協力的で作り方等の講習のときにも熱心に聴いてくれました。出来上がりも満足のいくものでした。

日本料理店も同様に意欲的に受け入れてくれ、在住の日本人にも大人気でした。

これで来年の30周年のイベントに向けて武漢市で販売出来ると確信いたしました。

友好都市武漢でも大分のようにとり天が食堂、レストランの定番料理になればと夢を見ながらの帰路でした。

「とり飯」と「だんご汁」を武漢の人たちに

(旬)吉野食品 取締役 油布 ヨシ子



写真(左) 油布氏

武漢は、道が広く、人通りが多く、高いビルが多いという印象です。農業博覧会の大分ブースを訪れる人も多く驚きました。

今回、大分の郷土料理の「とり飯」と「だんご汁」を武漢のレストラン2店舗で、武漢

市民の皆様にご紹介できればと参加しました。

洋風レストランと日本料理店の2店舗でしたが、中国の料理人の方は皆さんとても熱心で、通訳の人を交え、メモをとりながら真剣に調理方法を学んでいました。「びっちょ」をのばすのも、覚えるのも早く、言葉は通じませんでしたが、料理を通じて武漢の人たちと一緒に楽しい時間を過ごしました。

日本料理店では、早々と1日目の予定分50食が完売したと聞きました。これからもこのような機会を通じ、友好都市である武漢の人に、大分の郷土料理を覚えていただければと願っています。

2008年11月大分市経済ミッション(製造業)報告

大分市と武漢市の30年の友好都市としての歴史を背景に交流から交易に

2008年11月3日から6日、大分市から製造業5社を含む8名で構成された「大分市経済ミッション」が武漢市を訪れました。武漢市副市長との会見と懇談、希望企業への訪問・商談などを行いました。以下簡単に報告いたします。



東風本田汽車有限公司にて

主な活動

1. 11月3日 (武漢)
 - ①大分市武漢事務所訪問
 - ②農業博覧会大分ブース視察
 - ③人材派遣会社との協議
 - ④縫製会社訪問・商談
 - ⑤鋼材市場視察
2. 11月4日 (武漢)
 - ①東風本田汽車有限公司視察
 - ②東湖ハイテク開発区視察
 - ③武漢船舶配套工業園有限公司との懇談
 - ④湖北緑世界環保科技股份有限公司視察
 - ⑤内蒙蒙牛乳業股份有限公司工場視察
3. 11月5日 (武漢)
 - ①漢正街(卸売市場)視察
 - ②袁副市長との会見、懇談
 - ③商務局、招商局幹部との意見交換会
4. 11月6日 (上海)
 - ①福島県アンテナショップ視察
 - ②2008中国国際工業博覧会視察

参加企業からの声

- ・中国の現状についてはその一端を確認できたがビジネスに結び付けるには日本側の準備が必要。
- ・交流から交易に発展させるためには、それなりの企業の熱意と貿易インフラが必要であることを実感し

ました。30年間の友好都市としての歴史を背景に互恵精神に基づく交易に発展することを望みます。

- ・ 今後は、さらに踏み込んだビジネス方式の構築のため、人的サポートやアイデア、実務面などプロフェッショナルな視点からのサポートが大分の企業にビジネスチャンスをもたらすのではないかと思います。
- ・ 希望していた工場の見学ができず残念でした。政府の方から再訪問するよう勧められたので次回に期待します。
- ・ 百聞は一見に如かずではないですが、やはり現地の状況を生で見られたことは有意義でした。現地の多くの経営者と意見交換できる場が欲しかったです。

友好都市締結30周年を契機に更なる経済交流の発展を

現在、大分市では約850万人の人口を抱える友好都市武漢市の企業とのビジネスマッチングのための事業を展開しています。皆様の技術力とアイデア、熱意が活かされるステージを提供しております。

また、大分市と武漢市は、来年は友好都市締結30周年を迎えます。その記念事業の一つとして産業交流見本市を武漢市企業の参加により大分で開催予定です。

本事業に興味がある方はぜひ大分市商工労政課へお問い合わせください。

問い合わせ先

大分市商工労政課 工業係 大渡(おと)
TEL 097-537-5625

詳しくは、大分市ホームページ<http://www.city.oita.oita.jp/> >市政ガイド>ライフイベント仕事>をご参照ください。



東湖ハイテク開発区管理委員会にて